平成24年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ベニズワイガニ

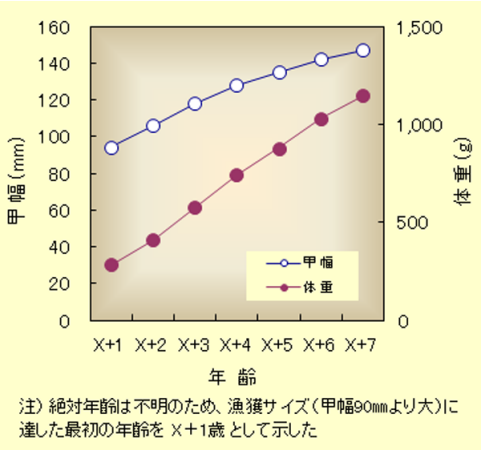
学名　*Chionoecetes japonicus*

系群名　日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所

生物学的特性

寿命:	10年以上
成熟開始年齢:	不明
産卵期・産卵場:	主産卵期は2～4月、隔年産卵で抱卵期間は約2年
索餌期・索餌場:	主分布域と同海域
食性:	イカ類の他、エビ類、カニ類（共食い含む）、ヨコエビ類などの甲殻類、微小貝類、小型魚類など
捕食者:	アゴゲンゲ、ドブカスベ、ツチクジラ、ベニズワイガニ（共食い）など



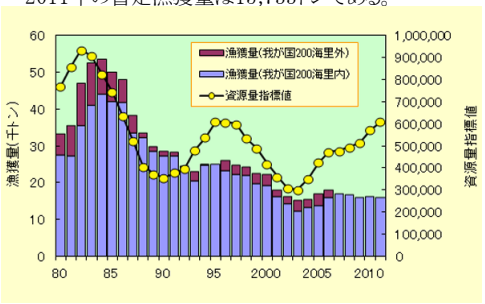
注）絶対年齢は不明のため、漁獲サイズ（甲幅90mmより大）に達した最初の年齢を X＋1歳 として示した

漁業の特徴

日本海ではかご網によって漁獲される。東経134度以東の各県地先における知事許可漁業と、東経134度以西及び大和堆・新隠岐堆などの沖合漁場における大臣許可漁業の2つの異なる許可形態で構成されている。甲幅90mm以下の雄ガニとすべての雌ガニは禁漁。2007年9月より鳥取県境港水揚げ船を対象に、2010年9月より兵庫県船を対象に個別割当制が導入されている。「資源管理指針・計画」の対象資源である。

漁獲の動向

漁獲努力量の増大と沖合域への漁場の拡大によって、日本海本州沿岸における漁獲量は1983～1984年には5.2万～5.3万トンまで増加したが、以後は急速に減少した。1992年以降は2.2万～2.6万トンでほぼ安定していたが、1999年以降は再び減少に転じ、2003年が14,971トンで最低となった。その後やや増加し、2006年以降横ばいで推移し、2011年の暫定漁獲量は15,733トンである。



資源評価法

漁区（緯度経度1度升目）単位で漁場面積と年間の平均CPUEを乗じた値を積算したものを資源量指標値とし、この値の動向から資源状態を判断した。

資源状態

大臣許可水域の資源量指標値は、1996年以降減少傾向にあったが2002年に最低値になった後は概ね増加傾向にある。一方の知事許可水域では、1978年以降大きな変動はないものの、1995年以降概ね高い水準で安定している。両海域の資源量指標値の合計について、最高値と最低値を三等分（高位、中位、低位）することで資源水準を判断し、中位とした。

管理方策

資源の増加傾向を維持しつつ本資源を利用していくには、高位水準である知事許可水域では現状の漁獲水準を維持、中位水準にある大臣許可水域においては現状よりも漁獲水準を下げることが望ましい。このため、両水域についてそれぞれの水準、直近の漁獲量と資源量指標値の推移をもとにABClimitを算出した。ただし、大臣許可水域については、個別割当制により各船の漁獲量に上限が設定されていることから、個別割当制導入直前3年間の漁獲割合の指標値（漁獲量／資源量指標値）を用い、直近の漁獲量を制限のない時の値になるように補正して計算に用いた。ABCtargetは、ABClimitに0.8を乗じて算定した。

	2013年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	178百トン	0.8・大臣許可C2011*・1.11 1.0・知事許可C2011・1.05	―	―
ABCtarget	143百トン	0.8・0.8・大臣許可C2011*・1.11 0.8・1.0・知事許可C2011・1.05	―	―

- 平成24年度ABC算定規則が改正され、ABCはABClimit＝δ_1・Ct・γ_1、ABCtarget＝ABClimit・αで計算した
- γ_1は、γ_1＝1＋k(b/I)で計算をし、kは係数(標準値の1.0)、bとIは資源量指標値の傾きと平均値(直近3年間)である
- 大臣許可漁業の漁獲量(C2011*)は、個別割当制導入直前の漁獲割合の指標値をもとに上限制が適用されなかった場合の漁獲量を推定し、ABCの計算に用いた

資源評価のまとめ

- CPUEと漁場面積から求めた資源量指標値より、資源水準は大臣許可水域で中位、知事許可水域で高位、全体で中位、動向はいずれの水域でも増加傾向にあることから、増加とした
- 2007年9月より、境港に水揚げする船について個別割当制が導入され、近年、漁獲割合の低下が推定される
- 漁場によって資源動向が異なるため、漁場ごとの管理が必要である

管理方策のまとめ

- 未成体個体の漁獲重量割合を低く抑えるような漁場の利用方法が望ましい
- 日本海西部を中心にここ2、3年程度は卓越年級群の加入が予想されるため、小型個体の混獲を極力避ける努力が必要である
- 将来予測には、調査船調査により漁場別に加入動向を把握することが重要
- 日韓暫定水域では、韓国漁船も操業しており、韓国漁船の動向によっては再び資源が悪化する可能性があり、協力して資源管理にあたる必要がある

執筆者:養松郁子

資源評価は毎年更新されます。